

議長定例記者会見(第17回)会見録



日時：平成26年12月18（木）
午後2時30分～
場所：石川県議会議事堂
議長応接室

会見を行う吉崎議長(右)と米田副議長(左)

1 発表事項（吉崎議長）

○ 今定例会を振り返って

例年の12月の定例議会であれば来年度の施策について踏み込んだ形で議論がなされたのかなと思いますが、ご存じのように急遽、衆議院の解散があり県議の方々もそれぞれ地域の中で衆議院選挙に向けた対応があり、ハードな日程であったのではないかと思います。国の方も例年ならば12月には各省庁の概算要求の査定があり、かなり踏み込んだ形で来年度の閣議決定前の予算の積み上げが少し見えてきているという時期でありましたが、解散によって先延ばしになったということもあり、県の執行部にしてもそういう不透明な状況の中での答弁というのは当初予算方針の説明はありましたが、議会も執行部も少し例年に較べれば議論不足の中での定例議会だったと思います。

補正予算の額を見ても10億8千万円余ということで、その大部分がアベノミクスによる景気対策によって民間企業が少しばかり経済が上向いてきたということで、給与についても配慮してくださいという方針が、人事院勧告の中で公務員についても見直しということで本当に長い間、民間また公務員の給料が抑えられていたのがようやくプラスの中での審議があったということで、これも経済対策の一環としていい形での補正、その部分が大部分の12月の補正であったと思っていますし、その中には来春の統一地方選挙に向けての平成26年度分の補正についてもあったと思っています。その辺りを踏まえながら、来年の統一地方選挙を控えて、今年は選挙の多い年でもありました。3月の知事選挙から衆議院の選挙や白山市や金沢市の市長選挙があり、結構いろんな事案があったように思っています。

(論戦について：北陸新幹線金沢開業を目前にして)

12月の締めに来年度に向けての議案として、いよいよ新幹線の金沢開業を目の前にしての県内全域での加賀能登への波及効果はきちんと提言された。特に能登地域の人口減少ということで、大きな課題を持っている中で世界農業遺産の認定もいただきながら、これを新幹線の金沢開業とどう結びつけていくかという課題は県下全域に関わる課題であるし、私の住む白山市においても白山麓は非常に人口が減ってきておりました、その辺りの対応については、能登地区と同じような課題があるのだろうと思っています。新幹線の波及効果を白山麓にもしっかりと伸ばしていくという施策が大事であろうと思っています。

そういった施策を波及させるために東京では「いしかわ百万石物語・江戸本店」というアンテナショップが開設されたということでもありますし、東京の皆様方にも石川県の良さを知っていただくために、銀座にアンテナショップを新しく開設したということでもあります。それから、開設からこれで2か月半ほど経ちましたが、かなり石川県らしさがでていっている。特に、東京にはない瓦屋根のアンテナショップということで、これについて東京の方々にお聞きしましても、とても新鮮で良いということでありました。

また、金沢市も近くにアンテナショップを開設されたということです。石川県と金沢市が連携しながら、いかに東京の皆さんに石川県にお越しいただくかということが大事かと思っています。私も東京で全国議長会等もありますし、富山県や福井県、長野県など他県のアンテナショップを視察しましたが、石川県に単に一度だけ来ていただくというのではなくて、再度来ていただく、また定住していただく、そういう呼び込みの仕方、また石川県の良さというのは石川県の人が気づいていないわけですが、東京の人にとってみれば、石川県の良さに感動する部分がかかなりあるとお聞きしています。ある県のアンテナショップに行ったときにその思いを強くいたしました。東京の人がアンテナショップに来られて、その県に行くことによって、県民が気づいていない良さを発信できるということ、施策を打ち出しておられる姿を見て、石川県の職員の方が東京の方に「石川県に来てください」というよりも、東京の人に石川県に来ていただいて、東京の方に導いていただくことがこれからの一つの課題です。大事なアンテナショップで石川県にお越しいただくためのリピーターとしても非常に大事な石川県にない視点で石川県の良さを発信していただけるといったことも大事になるということを感じたわけがあります。当然、石川県のほうも昨年、地方創生推進本部が立ち上げられて、来年度の長期構想の中にもこういったことを織り込みながらやられるということもありますし、将来ビジョンの中で議会としても執行部とは是非々でやりますし、副議長と連動しながら対応しなければならないだろう。

また、6年後に東京オリンピックがあるわけで、パラリンピックとあわせて、諸外国から日本へ来られる方が数多くおられるわけでありましてけれども、東京一極集中というわけにいかないわけです。新幹線で2時間28分という時間で結ばれるわけですけれども、開業効果をしっかりと東京から石川県に導いていくような施策、このオリンピックを通じながら、交流を深めていくような大切さはこれからの県政課題の中でも大事であろう

し、先般の議会の質問戦の中にも出ていたというふうにも思っています。幸いにも森元総理が東京オリンピックの組織委員会会長でもありますので、その地域の優位性を石川県としてもしっかり活かしていくことが大きく県政の推進に役立っていただける、そういったオリンピックを通じながらの方々が来られることによって、石川県の体育協会の底上げについても新しい形での血が入ってくると思う。体育全体にとっても非常にプラスになってくるだろうと思っています。身体が健康になれば健全な心も宿るわけですから、その辺りの連携もしっかり繋げていくことが今定例会の大きな議論の中での課題ではなかったのか、と思っています。

(意見書について)

それから、論戦はそうでありますし、意見書についてもいよいよ景気対策で都会がアベノミクスでその効果がいよいよ現れておりますけれども、なかなか地方のほうは景気に対する効果が感じられないということで、国の方も「まち・ひと・しごと創生本部」ということでもありますし、ローカルアベノミクスとして一つの方向も示されている中で、この意見書も出ているのかなと思っています。中小の企業の振興策という意見書も提出されて可決されたわけですが、清風さんがなぜ反対したのか、今日の討論を聞きながら、本来なら賛成していただく方が自然なのかなあと思いました。地域振興策として、地域大企業や中小の企業、地方の元気さのためにも、ああいった意見書というのは大事なことであつたらうと思っています。

その辺は少し疑問が残る中での意見書であつたかなと思っています。後ほどまた意見書等についても触れさせていただきますけれども、来年はいよいよ半島振興法が3月末に時限立法で切れてくるということでもあります。昭和60年、稲村国土庁長官の時代に半島振興法が成立したわけでもあります。平成7年、平成17年、来年とこれで3度目の延長をすべきかどうかという議論がこれから国会でなされていくと思っています。全国の半島地域振興対策議長連絡協議会の会長という私の立場もございまして、各政党の皆さん方との意見交換も重ねている中では非常に前向きな答弁をいただいております。その内容については、それぞれの政党において今後精査をしながら、地域の元気が出るための、また、定住促進のための施策がもう少しきめ細かに法案を整備していく必要があるのではないかという意見が各政党の皆さんから出ておりますし、政権与党の皆さん方についても同じような意見が出ていたのではないかなと思います。今の見通しとすれば半島振興法についても国の方では前向きに審議されてくるというふうに理解しています。石川県は大きな能登半島を抱えておりますし、人口減少という課題もありますし、世界農業遺産というアドバルーンだけではどうにもならない部分があるのではないかと、新幹線金沢開業と絡み合わせながら能登の振興策をきちっとこのへんで打ち上げていく必要があります、このことが大きな課題ではないかと思っています。

「今定例会を振り返って」ということでは、私の方からは以上であります。

○今年一年を振り返って

「今年一年を振り返って」という見出しがありますが、米田副議長は私より半年先輩でもありますし、今年3月27日に議長に就任いたしました。その際も共産党を除く方々全員の票をいただいたということで、その後の議会運営は円満にという思いで今日まで9か月余り歩いてきました。時々副議長にご無理をお願いしながら、これまで私を支えていただいたことに感謝申し上げます。いろんな課題もございましたし、議長として来春3月14日に迎える新幹線の金沢開業ということでもありますので、その効果をきちっと議会としても県執行部と議論しながら形づけることが非常に大事な課題であろうと思っていますし、そのことは先ほどの12月議会でも議論があったように百年の大計としてこれをきちっとして位置づけていくことが大事であるし、新長期構想の中でもそのことをきちっと議会史としても織り込んでいただけるように働きかけをしていくことが大事ではないかと思っています。

ただ、今年度は先ほど申し上げたように選挙の多い年でありまして、今年3月に川議員が知事選挙のために辞職されたということもございますし、金沢市の市長選挙や白山市の市長選挙で下沢さん、石坂さん、山田憲昭さんが辞職されております。その際にはいろんな形がありましたけれども、その方々の代わりに米光さん、室谷さん、川さん、大桑さん、白崎さんなど新しい方々が当選して現在43名の議席があるわけですが、白山市の選挙区の方が1名欠員という形でございます。しっかりと県政の将来展望のためにご提言いただけている次第です。新たな構成の中でも、来春はいよいよ地方統一選挙でもあります。議員辞職を受け取る際には私も緊張しましたし、辞職された方には、これからはいろんな形でしっかりとご活躍をいただきたいなど、私なりの思いをもっています。

(防災対策について)

それから、御岳山の噴火もありましたし、防災対策ということで、このへんの安全対策はしっかりとやっていかなければならないと思っていますし、国の統一的な強靱化の方策は示されたのですけれども、地方に対する強靱化策、知事は先頭に立ってやられている、県議会でも砂防の団体もあってしっかりと現地を見ながらやられているということでもございますので、県の執行部、県議会の議連と連携をとりながら、県民の安心安全のためにも取り組んでいかなければならないだろうと思っていますので、そこは永遠の課題かもしれませんし、ただやればよいということではなく、限られた予算の中での配分ということもありますので、どこが分岐点なのか見極めながら考えながらこれからの方策を考えていかなければならないだろうと思っています。

(議員提案の政策条例の制定について)

これまで議員提案の政策条例というのはあまりなかった。以前には携帯電話所持とい

うことで宮元陸さんを先頭に民主党と丁々発止しながら、議会からの条例案を出させていただいたのでありますけれども、今年の春には石川の酒で乾杯の条例案がございましたし、6月には歯と口腔の健康条例案が議員条例として提出されました。某新聞社によると来年は歯科医師も県職員として採用するやにお聞きしております。これは議会条例案が出されたことで執行部の方でそういった方向も築き上げているのかなと執行部の配慮に対して、議会としてお礼を申し上げなければならないと思っています。

(「ふれあい親子県議会教室」について)

夏に親子ふれあい県議会教室を開催しました。先進地である静岡へ視察に行かれた議員もおります。感想もお聞きしておりますが、静岡県では10年あまり続けて対応しておられるという話でありますけれども、石川県の親子教室は非常に中身が充実していたということで親御さんからもいい評価をいただいていますし、短時間の県議会視察をいただきながら、小学生でありましたけれども、非常によくまとめられて、議会で発表されていたということで、我々もしっかりと受け皿としてこれからもこの県議会教室というのは有意義な形であったろうと思います。私自身も青年団の若い時期に町議会での青年団の体験がございますけれども、そういう経験は自分自身、今こういう政治活動をしていながらも、若い時に分からなかった議会活動が、将来、子どもさんのためにも有意義な活動ではないかなと思うし、これからも継続して進めていくことが大事なことであろうかと思っています。

(議会における海外交流の促進について)

議会議員として世界に羽ばたくことも大事と考えており、日韓親善協会、それから議員連盟が韓国を訪問させていただきました。来年はいよいよ国交正常化から50周年を迎えますし、日韓親善協会は来年45周年ということもございます。全羅北道議会とは昨年友好交流に関する合意書を議会として締結しておりますし、歴史博物館が来年5月にリニューアルオープンするわけであります。その際、全羅北道議会の皆さんにもぜひ、こちらの方へお越しいただくということが内々に決まっているようでございますし、国と国との関係は、非常にいろんな溝があるようにお聞きしていますが、民間交流にはそのようなことはあまりないようにお聞きしています。地域と地域の交流、民間と民間の交流をしっかり結んでいくことが将来、国と国の交流にも大きな絆が作られていく原点であり、そのことを大事にしながらも石川県と全羅北道の友好交流は、互いに行き来することが大事だろうと思っています。

今年はその後に日中、中日と言いますか、福村議員を団長とする中での交流もあったと思っています。環日本海時代も目の前に来ているという中、県議会としても大きな将来展望をする上で、諸外国との交流が大事な課題だと思っています。私はたまたま議長ですが、議長を去る時がきてもこれからもそういった交流は大事な課題として捉えていけるように後進の指導にあたりたいと思っています。

(来年に向けて)

それから来春、統一地方選挙があるということで、地域の皆さんの審判を受けることになっています。二元代表制でありますけれども地域の声をしっかり受け止めてその土台の上に立って県政の推進というものをそれぞれの議員が、広い目線で対応ができる、そういう来年になっていただければと思っていますので、マスコミ各位のご意見をいただきながら、我々も執行部に対する形、二元代表制の代表としての県議会として、この12月定例議会の議論をしっかり土台にしながらかつていくことを大事にして取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくご指導ご鞭撻を賜るようお願いいたします。

2 質疑応答

記者

政治倫理審査会の話で議員から署名を集めて来ましたが、どのような対応をなさるおつもりですか。

吉崎議長

その後の報告をまだ聞いていませんけれども、議運ではそういった課題はまだ議論していく上でもう少し慎重にという話があったようにお聞きしています。その後どのような形でとりくんでいくのか、今はまだ検討中ということでお聞きしている。

議運のメンバーで審査会を立ち上げることが決まっているが、その内容についてはまだどういう形であるのか未定である。

記者

衆院選を御覧になっての議長の感想は何かございますか。

吉崎議長

消費増税を先送りするための3党合意はあるにしろ、当然、国を引っ張っていく上で、この10月から12月の経済動向を見て判断するという首相の判断において、これは1年半先延ばしするべきであるというので、3党合意に基づきながらも民意を問うということで適正な判断であった衆議院選挙である。また、1年半先延ばししてもその先上げる前にはやはり国民の審判を仰ぐことになるのだろう。そういうことを考えれば2年少したてばまた衆議院選挙があるのかなと思っています。ただ、今の国会議員の方がしっかり経済対策をし、国民の民意を踏まえていかないと、過去の歴史を見ても、消費税を上げたときの政権与党は大敗しているのが現状でありますし、ここは国会議員に説明責任があるのだろうと思っています。

県議会としても、それを受け止めながら県政を引っ張っていくことが大事であろうと

思う。そういうふうに今度の衆議院選挙を見ながら、これから先の方が大きな課題があると思う。経済が腰折れしないように国政でしっかり導いていただければと思う。

記者

議長はたまたま佐々木議員の2区にお住まいですけれども、執行部に対して議会在車の両輪であるのと似ているのかどうなのか、野党はだらしがないところがあると指摘なさいましたけれども、自民党が県内でもぐーっと席卷する中で、国政も県政も含めて、野党に対する注文と言えればおかしいが、何かありますか。

吉崎議長

少数意見は当然踏まえていかないと。それは民意の中にあるのだから。最終的に民主主義というのは多数決の論理なのであって大事な課題は是々非々で取り組んでいかなければならないだろうけれども、県政与党としても少数意見にはしっかりと耳を傾けていくことは大事なことである。当然、政治は弱いところに光を当てていくというのが原点であるから。経済人なら経済論理だけで動くことができるだろうけど。しっかり議論していくことが原点であり、そうでなければ衆議院選挙で振り子の反動が出てくる。5年前の政治選択の選挙がそうであったように思っていますし、そこは不用意な発言やら民意や少数意見にも耳を傾けることが大事である。

記者

今年一年で県議会の仕事や条例などの中で印象深かったことはありますか。

吉崎議長

東京のアンテナショップ開業は、非常にインパクトがあるものだろうし、私はもっともっと都会の皆さんに石川県の良さを知ってもらうためのアンテナをあげて欲しいなと思う。東京の道々でいろんな方にお聞きしたけれど、いい感触で捉えていると思う。好評な声が多かった。県議会の委員会の中では少し県執行部に対する批判の声もあったようですけれど、私がそこにいる方に聞いたところでは、アンテナショップにいながらもまた石川県に行ってみたいというお話をされていました。県を発信する意味でこれからのキーポイントになる。今まであったアンテナショップを批判するわけではないですけど、立地が悪い、ちょっとわかりにくい、看板も挙げられないというところではなく、今のアンテナショップの中で、交流人口が年間1800万人を運ぶ能力を持つ新幹線を通じ、いい意味で発信していただければよいと思う。我々の若い頃からの課題と言いますか、昭和40年代からの課題で、北陸新幹線という名称がついてからでもそれぐらい。北回り新幹線という名称からはもう50年が経過しますが、それがいよいよ動き出すわけです。

記者

県議会の議員の関心も高かったですよね。

吉崎議長

はい。他県のアンテナショップもいろいろ見て回ったのだが、他県のものでこれはいかなものか、というものもあった。福井の場合はインターネットを通じながら、福井の現地の人と都会の人がインターネットのカメラで顔を合わせて意見交換ができる、ああいうのをやっているのを、いいものだと感じた。インターネットを介して双方向で、調理法やお米はどれがおいしいかなどを聞いていた。お客さんはその画面に見入って聞いていた。

記者

繰り返しになるかもしれませんが、辞職される方、退職される方、その辺りをあらためて伺いたい。

吉崎議長

辞められる方も新しいステージに立つということで、政治家としての道を歩んでいく上での判断で辞職されたのだらうと思いますけれども、我々とすれば長年連れ添った仲間といえますか、会派を超えて県議のステージは横においても県民の一人として頑張って肥やしにしたものを形にしていけるというふうに頑張りたいと思っているし、新しくなられた方についても県民の代表で出てくるわけだから、ともすれば個人的な感情で意見を言われる方がいらっしゃるが、広い目線で、もう少し受け皿を大きくして意見を述べていくことが大事だと思う。県下全域、5年10年先を見ながらの県政の将来というのを課題として、しっかり新しい方々にも学んでいただければというふうに思っており、ご活躍をお祈りしています。

記者

辞職された方々を見ていきますと、今年だけに限らないですけど脂の乗ったベテランの域に差し掛かるかどうかくらいの方が、見方によっては流出してしまうということもあるかもしれませんが、そのあたりは議会で培った力が行政で求められたからこそそのことと解釈してよろしいでしょうか。

吉崎議長

周囲も期待し、本人も志を持っているから、県政から新しいステージで自分の思いを形にしていきたいということを意思表示されたのだらう。ただ、民意はそういう組織の中ばかりではないですし、そのときの風向きもありますし、いろいろなものをトータルで考えなければ判断に誤りがある場合があると思っている。個人の思いだけでなく、まわりの方々の影響力もやっぱりあると思っています。それは総合的に判断することが大事であらうかと思う。